

児童発達支援事業所における自己評価結果(公)

公表:令和6年3月1日

事業所名 めばえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			
	2	職員の配置数は適切である	9	2	利用児数に対して十分な配置ができています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	2	環境設定をしている。 運動時や食事時など場面に合わせて空間分けをしている。	フロア内に段差があるので利用児が移動する際には安全面への配慮が必要なため、職員間で共有しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11		毎日、消毒をしている。	環境整備を日々行い、利用児の変化に合わせて変更していきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1	業務を振り返り、全体で改善していけるようにしている。	各職員が目標、目的を持ち取り組み振り替えを行っていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	2		ホームページで公表し、アンケートで得た保護者の意向を職員間で共有していきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		ホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		今後は検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1		外部講師の研修や症例検討を定期的に行い質の向上を図っています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1	言語聴覚士等の検査により評価をしている。	個別訓練時に評価尺度を用いて、言語理解の把握と、行動について評価しています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		毎月のプログラムを職員全員で立案している。	毎日のプログラムの計画を立てて多職種で話し合いを行っていきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		プログラム作成時にバランスよく作っている。	プログラムの内容を毎月職員間で話し合い、固定化しないよう充実できるように検討していきます。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9	1	個々の状況に応じて個別と集団での活動を実施している。	言語聴覚士、作業療法士、保育士、児童指導員が情報共有しながら同じ目標をもって支援できるよう症例検討を重ねながら目標設定を行っていきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	1	毎朝のミーティングで情報共有している。	毎朝のミーティングを継続していきます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	3	気になった事象があれば都度情報共有している。	翌日に持ち越すことがあるので可能な限り、その日に情報共有していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	3	症例検討を適時実施している。	記録の記入と振り返りを継続していきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	1		
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		管理者・児童発達支援管理責任者が参画している。	担当者会議に参加し、他事業所や保護者、各関係機関との連携を図っていきます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	3	保育園や幼稚園と書面、電話、訪問で連携をしている。	区役所の子育て課との連携を行っているため、継続して取り組みます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2		現在、医療的ケア児の利用がないが必要に応じて連携した支援が行えるよう情報収集を行っていきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2		現在、医療的ケア児の利用がないが必要に応じて連携した支援が行えるよう情報収集を行っていきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	入園児や就学時に支援内容を書面で情報共有している。	幼稚園、保育園の入園にむけて面談や支援方法の共有を行っているため、今後も継続して取り組みます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	2	書面にて情報共有している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	3	言語聴覚士による研修を実施。	他事業所との交流を図り意見交換等を行っていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4		現在交流はないが今後、検討していきたいです。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5		参画はできていないが、事業所の訪問・見学会には参加させていただいた。今後も参加していきたいです。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	1		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	2		ペアレントトレーニングは行っていないが、相談には随時対応させていただいている。家族支援を充実させていきたいです。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	4		現在、保護者会はないが今後検討していきたいです。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		SNSやその日の様子を写真でお伝えしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		毎月避難訓練をしている。	保護者にもわかりやすい方法で避難経路や訓練内容をお知らせしていきたいです。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。